

バオバブの会 ニュースレター No.4 2008年6月24日発行

バオバブの会
〒240-0051 神奈川県横浜市保土ヶ谷区上菅田町 1500 笹山団地 14-202
TEL&FAX : 045-373-0059 E-mail : hajmass@hotmail.com
会長 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

雨に濡れた紫陽花がひととき美しい季節となりました。
皆様にはお元気でお過ごしでしょうか。
本日は、4月末～5月に行なわれたイベントの報告と、上半期の活動のまとめをお送りいたします。

★ イベント報告

アフリカンスクール「給食の時間」

4月26日(土)、保土ヶ谷区地区センターでのアフリカンスクール「給食の時間」(主催:アフリカ開発会議横浜開催委員会)では、ディウフ会長が講師をつとめ、マフェ(ビーフとトマト、ピーナツ・ペーストのシチュー)、ベニエ(ココナツとレーズン入りドーナツ)の調理実習が行なわれ、小学生から7歳の方まで約25名の参加者が、和気あいあいとセネガル料理に挑戦しました。試食の際には、セネガル式テーブルマナー(右手のみを使い、直に食べる)の紹介もあり、早速試す方もいて、5つの鍋いっぱいにできあがったマフェも、あっという間になくなりました。殆どの方にとってセネガル料理は初体験だったようですが、「おいしい!」「家でも作ってみます」と大変に好評でした。

その後、アターヤ(セネガル風ミントティー)のセレモニーの実演と試飲、ディウフ会長による講演も行われました。

★なお、このイベントは、4月27日付け朝日新聞神奈川版と5月5日付け神奈川新聞の教育欄で紹介されました。

アフリカン・フェスタ 2008

5月17日(土)18日(日)の2日間、みなとみらい21の赤レンガ倉庫で、外務省主催によるアフリカン・フェスタ2008が開催されました。2日間ともお天気に恵まれ、大勢の来場者で賑わいました。

アフリカン・フェスタ2008事務局サイトのフォトレポート

<http://www.africanfesta2008.com/contents/report.html>

バオバブの会では、アフリカ関連の絵本、アフリカプリント布と衣類、アクセサリーを販売しました。特に絵本販売は、他では殆ど扱っていないということもあり、多くの方の関心を集め、ほぼ完売することができました。また、18日午後には、TNnet主催によるNGO活動紹介コーナーで、ディウフ会長と坂本副会長が、バオバブの会の活動紹介を行ないました。

長浜ホール「アフリカ祭」

金沢区の野口英世記念公園内の長浜ホールでは、5月4日(日)と5月24日(土)25日(日)の3日間、「アフリカ祭」(主催:横浜市 金沢区)が行なわれました。

バオバブの会では、5月4日(日)には、セネガルの民族衣装試着体験とアフリカ関連絵本の販売、24日(土)・25日(日)には、マフェ、ヤッサ(マリネしたチキンと玉葱で作るシチュー)、ベニエ、アターヤ、アフリカ関連の絵本、アフリカプリント布と衣類、アクセサリーの販売を行ないました。

また、5月4日(日)と25日(日)には、ディウフ会長より採話したセネガルの民話をもとに坂本副会長が作成した、紙芝居「みんなつながってる」を、サポーターのSさんとディウフ会長が上演しました。こちらも大変な好評を博しましたので、今後も、折に触れ、上演していくことになりました。

☆ニューズレターNo.2でご報告した FM 横浜への出演以降も、デイウフ会長及びバオバブの会へのマスコミ取材が続き、その後、多くの新聞、テレビで報道されました。

まとめてご紹介いたします。

- 朝日新聞 神奈川地方版 2008年4月27日付 27面 (横浜)
- 東京新聞 2008年4月29日付 24面 (横浜 地域の情報)
- 神奈川新聞 2008年5月5日付 14面 (教育)
- 神奈川新聞 2008年5月25日付 30面 (社会)
- 毎日新聞 2008年5月25日付 25面 (神奈川)
- インターナショナル・ヘラルド・トリビューン/朝日
2008年5月28日付 23面

- なお、5月17日(土) 18日(日) 31日(土)には、
セネガル国営放送 RTS1 (Radio Télévision Sénégalaise)の取材もありました。

●TICAD 関連「市民社会セッション」でディウフ会長が発言

前号までのニューズレターと今号のニューズレターでご報告しましたように、2月からバオバブの会が参加した一連のイベントのほとんどは、5月28日から30日にかけて横浜で開かれたアフリカ開発会議（TICAD「ティカッド」と読みます＝Tokyo International Conference on African Development）に関連したものでした。この会議は、日本が国連やアフリカのためのグローバル連合（GCA）および世界銀行との共催で開催する、アフリカの開発をテーマとする国際会議で、1993年に第1回が開催されて以降、今年で4回目を数えます。しかし、14年以上も経っていながら、この会議の参加者は、ほとんどが政府機関や国際機関、企業で占められ、日本およびアフリカの市民団体の参加は、ごくごく限定されたものに過ぎませんでした。しかし近年、アフリカ支援にかかわる日本のNGOは力をつけてきており、その活動には目覚ましいものがあります。そのようなNGOが集まり、NGO間の情報共有や連絡調整ならびに市民社会の側からのTICADへの政策提言を目的として、2007年3月に発足したのがTNnet（「ティー・エヌ・ネット」と読みます。＝TICAD IV・NGOネットワーク）です。遅ればせながら、バオバブの会も今年2月にTNnetに加盟し、5月末現在、TNnetの加盟団体数は43に達しています。

（★TNnetのホームページ：<http://www.ticad-csf.net/TNnet/>）

TICAD開催中の5月28日、日本政府などが主催する本会議とは別に、日本、アフリカおよび欧米の市民社会代表者らが参加する「市民社会セッション」が、TNnet主催で開催されました。TICADの公式プログラムとしては、史上初のことです。アイルランドの有名なロックバンド、U2のボーカリストで、アフリカの貧困削減のために活動しているボノ氏などの著名人もパネラーとして出席したためか、多くのメディアが詰めかけました。この会議では、貧富の格差解消の問題や市民社会の役割の重要性などが熱心に話し合われ、その模様は、インターネット中継で世界に同時発信されました。バオバブの会からも、ディウフ会長が一般参加者として出席し、発言を行いました。主な発言内容は、次のとおりです。「アフリカの発展は、アフリカ人だけで成し遂げられるでしょう。アフリカを発展させるための人や天然資源は、アフリカの大地に眠っています。それは目覚めさせる必要があります、それらは教育を通してのみ、目覚めさせることができます。アフリカの子供たちは、とても賢いのです。もしもアフリカの子供たち全員が教育を受けることができれば、20年か30年のちには、あなたがたは今とはまったく別のアフリカを見ることでしょうか。これは、お約束できます。もしも、100パーセントのアフリカの子供たちが教育を受ければ、アフリカは援助を受ける立場ではなくなり、全人類の幸福に大きな貢献をする役割を担うに違いありません。これまで、いったいどれくらいの援助金がアフリカに注ぎ込まれてきたのでしょうか。この援助金が適切に使われているかどうか、私たちは確かめようではありませんか。私たちバオバブの会は、日本の数あるアフリカ関連NGOの中で、教育に焦点を当てて活動しています」ディウフ会長のスピーチは短いものでしたが、たいへん熱がこもったもので、自宅のパソコンで視聴していた私も、感銘を受けるものでした。その熱意が伝わったのか、5月30日のTBS・NEWS23でも、「アフリカの発展は、アフリカ人だけで成し遂げられるでしょう。もしもアフリカの子供たち全員が教育を受けることができれば、20年のちには、あなたがたは今とはまったく別のアフリカを見ることでしょうか」という発言が放送されました。ただし、この放送内容には問題もあって、ディウフ会長の名前、年齢、出身国が誤って表記されていました。TBSの記者の方が、ディウフ会長に直に取材をしなかったことが間違いの主な原因だったようですが、会からTBSに訂正要求を申し入れたところ、担当者の方から丁寧なお詫びをいただき、また後日、NEWS23のホームページで訂正をしていただきました。

●市民社会に目を向けていない外務省の問題

新聞などで報道されたように、アフリカ、日本、国際NGO56団体がTICAD本会議への出席を希望し、各団体から87名がID登録したにも拘わらず、外務省は、「本会議へのアクセス・パスの発給数は、全NGOで3枚のみ」と大きな制限を付けてきて、これが市民社会軽視だと、大問題となりました。世論の批判を受けて、パスの発給数は最終的に11枚になりましたが、それでも希望者のわずか8分の1に過ぎません。いかに日本政府が市民に対して扉を閉ざしているかがわかります。

先の「市民社会セッション」でも外務省の官僚がパネラーとして出席したのですが、極めて事務的、官僚的な発言に終始し、市民に対する真摯な姿勢を見ることはできませんでした。このような行政の姿勢を変えていくことも、市民社会全体の今後の課題だと思います。

●皆さんのお力添えに感謝

今年1月のバオバブの会設立からTICAD開催の5月末まで、ディウフ会長をはじめ運営委員たちは、よく

働きました。いささか手前味噌になりますが、全員が持てる力を最大限に発揮して、頑張ったと思います。運営委員以外にも、会計の W さんのお連れ合いの B さん、会計監査の S さん、N さん、T さんなど会員の方々、また、S さん、O さんなどサポーターの方々にも、多大なご協力をいただきました。直接、イベントなどでお顔を拝見できた方も、そうでない方も、多くの方々から、物質的、精神的なご支援をいただきました。この場をお借りして、お礼を申し上げます。皆さんのお力によって、イベント出展などで得られた収益（寄附金を含む）は、かなりの金額になりました。最終的な額については、改めてご報告いたします。また、6 月 20 日現在で、バオバブの会の会員数は 18 名になりました。設立時以降の 5 ヶ月間で、7 人の方が入会されたのです。もともと、「スローペースでも良いから」ということで始まった会ですが、思った以上に会員数が増えて、運営委員は皆、嬉しく思っています。

●バオバブの会の「信条」とは

「なぜ、アフリカの子供たちに教育が必要なのか」という問いに対しては、いろいろな答えがあるかと思います。「読み書きは、正しい知識を得るために必要だから」、「広い世界のことを知ってほしいから」、「より高い収入を得るのに役立つから」、などなどです。どれも正しいのですが、「それで、アフリカの貧しい状況が変わるのか」と聞かれると、すぐに「そうです」とは答えにくいと思います。アフリカが貧しいのは、構造的な問題が根本にあります。先のディウフ会長の発言にあるように、アフリカには、人的資源や天然資源が豊富です。しかし、それからもたらされる「富」は公平に分配されず、ほとんどが“先進国”の大企業やアフリカの政治家の手に渡っています。つまり、政治のあり方に大きな問題を抱えているのです。政治をアフリカ市民のものにしない限り、貧困を解消することはできません。アフリカでは、多くの人が「人権」という言葉の意味を知らないといわれています。もしそれが事実なら、教育こそが、人権意識をアフリカに芽生えさせ、大きく育む唯一の手段になりえます。そして、政治の民主化がなされてこそ、アフリカの貧困解消は可能になるのです。「アフリカの民主化のために教育が重要」という考え方は、バオバブの会設立時には、運営委員の間で統一した認識にはなっていませんでした。しかし、TICAD や各イベント、シンポジウムなどからの情報に触れ、また活動の幅を広げることによって、銘々の間で、この認識がはっきりしてきたという印象があります。今では「教育こそが、アフリカの民主化を促し、社会構造を変える手段となる」という考えが、バオバブの会の信条となりました。「政治を市民のものにすることが重要」というのは、アフリカに限った話ではありません。アフリカ同様、貧困問題を抱える世界のさまざまな地域でもそうですし、日本などの“先進国”も例外ではありません。今、話題になっている後期高齢者医療制度や食糧価格高騰などに見られるように、本当はとても身近なものです。アフリカを考えることが、足下の日本のことを考えることにつながる。あるいはその逆に、日本を考えることが、世界の貧困問題を考えることにつながる。つまりは、政治も経済も社会も、すべての国や地域でつながっているということです。私たちはこれからも、それを忘れないように活動していきたいと思っています。とにかく、世界はひとつなのですから。